

入札公告

次のとおり一般競争入札に付します。

令和6年11月7日

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 新潟拠点長 魚崎 浩司

1. 調達内容

- (1) 調達件名及び数量 第18回日中韓大型クラゲ国際ワークショップ同時通訳業務一式
- (2) 調達仕様 入札説明書による。
- (3) 履行期間 自) 令和6年12月9日
至) 令和6年12月13日
- (4) 履行場所 入札説明書による。
- (5) 入札方法 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額(当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額)をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

2. 競争参加資格

- (1) 国立研究開発法人水産研究・教育機構契約事務取扱規程(平成13年4月1日付け13水研第65号)第12条第1項及び第13条の規定に該当しない者であること。
- (2) 令和4・5・6年度国立研究開発法人水産研究・教育機構競争参加資格又は全省庁統一資格の「役務の提供等契約」の業種「翻訳・通訳・速記」で「A」、「B」、「C」又は「D」いずれかの等級に格付けされている者であること。
- (3) 国立研究開発法人水産研究・教育機構理事長から物品の製造契約、物品の販売契約及び役務等契約指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。
ただし、全省庁統一資格に格付けされている者である場合は、国の機関の同様の指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第32条第1項各号に掲げる者でないこと。
- (5) 本業務に配置する予定者が、水産分野の国際研究会議において二カ国語以上(日本語・中国語・韓国語含む)同時通訳業務を行える通訳者(一般的な水産海洋用語の意味を熟知し、かつ通訳業務経験5年以上の者)であることを証明した者であること。

3. 入札説明書等の交付方法

競争参加希望者は、以下により入札説明書等(入札説明書、入札心得書、契約書案、入札書様式、委任状様式等)の交付を受けること。

① 直接交付

新潟県新潟市中央区水道町1丁目5939番地22
国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 新潟拠点 管理チーム
電話 025-228-0451
FAX 025-224-0950

② 宅配便着払いによる交付

任意書式に「第18回日中韓大型クラゲ国際ワークショップ同時通訳業務入札説明書宅配便にて希望」と記入し、社名、担当者名、住所、電話番号を記載のうえ、上記①あてFAX送信すること。

③ メールによる交付

任意書式に「第18回日中韓大型クラゲ国際ワークショップ同時通訳業務入札説明書メールにて希望」と記入し、社名、担当者名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、上記①あてFAX送信すること。

4. 入札説明会の日時及び場所等

仕様書等に関し質疑がある場合には、令和6年11月18日まで上記3.あてにメール（アドレスは入札説明書に記載）又はファックスにて質疑を行うこと。当日までの質疑を取りまとめ、回答は入札説明書受領者全員に対して行うとともに当該機構のホームページにて公表することにより入札説明会に代える。

なお、当該日以降に質疑が発生した場合も随時受け付け、同様に対応する。

ただし、質疑内容に個人に関する情報であって特定の個人を識別し得る記述がある場合及び法人等の財産権等を侵害するおそれのある記述がある場合には、当該箇所を伏せ又は当該質疑を公表せず、質疑者のみに回答することがある。

5. 証明に関する事項

- (1) 証明書等
- (2) 提出場所
- (3) 提出期限

競争参加者は、上記2.(5)を証明する証明書等を提出しなければならない。

入札説明書による。

3. ①に同じ。

令和6年11月18日 17時00分

6. 入札の日時及び場所等

- (1) 入札の日時及び場所

令和6年11月25日 14時00分
新潟県新潟市中央区水道町1丁目5939番地22
国立研究開発法人水産研究・教育機構
新潟庁舎 会議室

- (2) 郵便による入札書の受領期限及び提出場所

令和6年11月22日 17時00分
3. ①に同じ。

7. その他

- (1) 契約手続きにおいて使用する言語及び通貨

日本語及び日本国通貨。

- (2) 入札保証金及び契約保証金

免除。

- (3) 入札の無効

本公告に示した競争参加資格のない者の提出した入札書及び入札に関する条件に違反した入札書は無効とする。

- (4) 契約書作成の要否

要。

- (5) 落札者の決定方法

予定価格の制限の範囲内で最低価格をもって有効な入札を行った入札者を落札者とする。

- (6) 競争参加者は、入札の際に国立研究開発法人水産研究・教育機構の資格審査結果通知書写し又は全省庁統一資格の資格審査結果通知書写しを提出すること。

- (7) 詳細は入札説明書による。

8. 契約に係る情報の公表

- (1) 公表の対象となる契約先

次の①及び②いずれにも該当する契約先

① 当該機構において役員を経験した者（役員経験者）が再就職していること又は課長相当職以上の職を経験した者（課長相当職以上経験者）が役員、顧問等^{※注1}として再就職していること

② 当該機構との間の取引高が、総売上高又は事業収入の3分の1以上を占めていること^{※注2}

なお、「当機構」とは、改称前の独立行政法人水産総合研究センター及び国立研究開発法人水産総合研究センター、統合前の独立行政法人水産大学校を含みます。

※注1 「役員、顧問等」には、役員、顧問のほか、相談役その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、助言すること等により影響力を与えると認められる者を含む。

※注2 総売上高又は事業収入の額は、当該契約の締結日における直近の財務諸表に掲げられた額によることとし、取引高は当該財務諸表の対象事業年度における取引の実績による。

- (2) 公表する情報

上記(1)に該当する契約先について、契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約先の名称、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表する。

- ① 当機構の役員経験者及び課長相当職以上経験者（当機構OB）の人数、職名及び当機構における最終職名
- ② 当機構との間の取引高
- ③ 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合が、次の区分のいずれか
 - ① 3分の1以上2分の1未満、2分の1以上3分の2未満又は3分の2以上
- ④ 一者応札又は一者応募である場合はその旨

(3) 当機構に提供していただく情報

- ① 契約締結日時点で在職している当機構OBに係る情報（人数、現在の職名及び当機構における最終職名等）
- ② 直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び当機構との間の取引高

(4) 公表日

契約締結日の翌日から起算して原則として72日以内（4月に締結した契約については原則として93日以内）

(5) その他

当機構ホームページ（契約に関する情報）に「国立研究開発法人水産研究・教育機構が行う契約に係る情報の公表について」が掲載されているのでご確認ください。また、必要情報の当機構への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締結を行っていただくようご理解とご協力をお願いいたします。なお、応札若しくは応募又は契約の締結をもって同意されたものとみなさせていただきますので、ご了承ください。

9. 公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について

当機構では、国より示された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成19年2月15日文部科学大臣決定）に沿って、公的研究費の契約等における不正防止の取り組みを行っており、取り組みのひとつとして、取引先の皆様に「国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたっての注意事項」（URL：http://www.fra.affrc.go.jp/keiyaku/pledge_request/note_contract.pdf）をご理解いただき、一定金額以上の契約に際して、当該注意事項を遵守する旨の「誓約書」の提出をお願いしています。

公的研究費の不正防止関係書類（①公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について、②国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたっての注意事項、③誓約書）は、入札説明書に添付しますので、契約相手方となった場合は、誓約書の提出をお願いします。

なお、当機構の本部、研究所、開発調査センター、水産大学校いずれか1箇所に1回提出していただければ、当機構内の次回以降の契約では再提出する必要はありません。

業 務 仕 様 書

1. 件 名 第18回日中韓大型クラゲ国際ワークショップ同時通訳業務
2. 業務目的 令和6年度水産庁補助事業「大型クラゲ国際共同調査事業」の一環として、研究交流活動を推進するため、大型クラゲ国際ワークショップが日本で開催される。本業務は、その際に必要な三カ国語同時通訳業務を行うことを目的とする。
3. 業務場所 新潟県新潟市および山形県鶴岡市
研究発表会及びレセプション場所
朱鷺メッセ国際コンベンションセンター及びホテル日航新潟
※詳細については別途指示する
現地視察場所
鶴岡市立加茂水族館
※詳細については別途指示する
4. 業務期間 令和6年12月9日～12月13日
※詳細は別紙通訳業務日程表のとおりとする。
5. 業務内容 本ワークショップ（研究発表会、レセプション、現地視察）では、日中韓の研究者が参加し、大型クラゲに関する最新の研究成果発表をはじめ、研究情報の交換、今後の協力に関する意見交換を母国語によって行うため、以下のとおり通訳業務を行うこと。
別紙通訳業務日程表に記載するすべての会議およびレセプションにおいて、同一通訳者が会議およびレセプションの最後まで業務を行うこと。
なお、本ワークショップにおいては、リレー形式での通訳を行わないこととする。
 - ① 本ワークショップ前日に行われる日中韓責任者によるワークショップ事前打ち合わせを行う際に通訳者1名もしくは3名以上（日本語・中国語・韓国語の三カ国語通訳を行える通訳者がいる場合には1名以上、二カ国語通訳者（日⇔中、中⇔韓、韓⇔日）で三カ国語通訳を対応する場合は3名以上）を配置し、1時間程度逐次通訳業務を行うこと。
 - ② 研究発表会において日本語・中国語・韓国語通訳者2名もしくは3名以上（日本語・中国語・韓国語の三カ国語同時通訳を行える通訳者がいる場合には2名以上、二カ国語通訳者（日⇔中、中⇔韓、韓⇔日）で三カ国語同時通訳を対応する場合は3名以上）を配置し、同時通訳

送信システムを用いて講演者とほぼ同時に通訳を行うこと。なお、同時通訳送信システムについては、請負業者が準備すること。詳細は別紙「同時通訳送信システムについて」のとおり。

(参考資料として令和5年度ワークショッププログラム(中国開催)を添付する)

- ③ 研究発表会開催後に予定しているレセプションに通訳者1名もしくは3名以上(日本語・中国語・韓国語の三カ国語通訳を行える通訳者がいる場合には1名以上、二カ国語通訳者(日⇄中、中⇄韓、韓⇄日)で三カ国語通訳を対応する場合は3名以上)を配置し、日中韓の良好な情報交換および交流の場となるよう適切な逐次通訳を行うこと。
- ④ 現地視察(場所は山形県鶴岡市)を行う際に通訳者1名もしくは3名以上(日本語・中国語・韓国語の三カ国語通訳を行える通訳者がいる場合には1名以上、二カ国語通訳者(日⇄中、中⇄韓、韓⇄日)で三カ国語通訳を対応する場合は3名以上)を配置し、日中韓の関係者間の逐次通訳業務を行うこと。また、現地視察通訳業務の際、同時通訳送信システムの送信機・受信機を使用すること。詳細は別紙「同時通訳送信システムについて」のとおり。

(現地視察の場所までの移動については、主催者側が用意する)

6. その他
- 1) 本業務を遂行する者は、水産分野の国際研究会議において二カ国語以上(日本語・中国語・韓国語含む)同時通訳業務を行える通訳者(一般的な水産海洋用語の意味を熟知し、かつ通訳業務経験5年以上の者)であることを証明できる者とする。
 - 2) 本業務に必要な交通費等は業務請負業者の負担とする。
 - 3) 宿泊ホテルについては、本ワークショップ会場隣接のホテル(ホテル日航新潟)とする。また、同じ場所をとることができない場合は、近隣ホテルとすること。
 - 4) 会議等の開催時間及び終了時間については、予定から変更する場合がある。
 - 5) 担当者から事前に送付するワークショップ発表内容を十分把握し、通訳業務が完全に履行できるよう準備しておくこと。
 - 6) 本会議の開始前に、横浜市(場所は担当者と協議の上決定する)において担当者と2時間程度の事前打ち合わせを行うものとする。ただし、本業務を過去に請負実績がある場合には、事前打ち合わせを省略することができる。
 - 7) 本業務で知り得た知識、情報は、他に漏らしてはならない。
 - 8) 本仕様書は大要を示したものであり、詳細について疑義が生じた場合は担当者と協議の上、その指示に従うものとする。

通訳業務日程表

日程		業務仕様書 (5. 業務内容)	行程・会議名
月日	時間		
12月9日			会場隣接ホテル(ホテル日航新潟)到着
	19:00 ～ 20:00	①	日中韓責任者によるワークショップ事前打ち合わせ
12月10日	9:00 ～ 18:00	②	日中韓大型クラゲ国際研究発表会
	19:00 ～ 21:00	③	レセプション
12月11日	9:00 ～ 18:00	②	日中韓大型クラゲ国際研究発表会
	19:00 ～ 21:00	③	レセプション
12月12日	9:00 ～ 18:00	④	現地視察(鶴岡市立加茂水族館)
12月13日			午前中ホテルにて解散

別紙

同時通訳送信システムについて

詳細は次のとおりとする。

規 格	簡易型同時通訳送信システム チャンネル切替により、3チャンネル以上使用できるもの
数 量	送信機：3台 受信機：100台 充電器：3台 (ブース、コントローラー、エンジニア含む)
使用日程	令和6年12月10日～12月12日 3日間 日中韓大型クラゲ国際研究発表会及び現地視察においてのみ使用する。 ただし、現地視察においてブース、コントローラーは使用しない。
特記事項	1) 第18回日中韓大型クラゲ国際研究発表会及び現地視察において本機器を用いて通訳業務を行う。 2) 機器は、日本国内の電波法に対応したものであること。 3) 当所の職員等の故意若しくは過失による故障等は当所の責において修理するものとする。

17th International Jellyfish Workshop

Dec. 18~Dec. 22 2023, Hangzhou, China

(2nd Floor, Penglai Hall (蓬莱厅), Friendship Hotel)

Date / Time	Title	Name
Dec 18	Arrival	
Dec 19		
9:00-9:20	Registration	
9:20-9:40	Opening session	Jia Hua CHENG
Session I: Review on Jellyfish Studies in China, Japan and Korea		
Chair: CAFS		
9:40-10:00	Monitor and study on jellyfish in China during 2020-2023	J.H. CHENG (China)
10:00-10:20	Studies on the giant jellyfish in Japan from 2020 to 2023	T. WATANABE (Japan)
10:20-10:40	Jellyfish blooms of Korea in 2023	S.H. YOUN (Korea)
10:40-11:00	Coffee Break	
Session II: Jellyfish Distribution		
Chair: Tatsuro WATANABE		
11:00-11:20	Spatio-temporal distribution of the giant jellyfish <i>Nemopilema nomurai</i> in the East Asian waters by sighting survey: before (2006-2019) and after (2020-2023) the COVID pandemic	S. UYE (Japan)
11:20-11:40	Study on the distribution characteristics of <i>Nemopilema nomurai</i> by water column	K.H. LEE (Korea)
11:40-12:00	The distribution of <i>Nemopilema nomurai</i> in the Tsushima Strait from 2020 to 2023	M. NAKAE (Japan)
12:00-14:00	Lunch: 2 nd Floor, Yingzhou Hall (瀛洲厅)	
Chair: Seok Hyun YOUN		
14:00-14:20	Distribution patterns of large jellyfish and their effects on the zooplankton community in the northern Chinese	D.J. GUO (China)

	coastal seas during the summer of 2021	
14:20-14:40	Giant jellyfish appearance along Japanese coasts in 2020-2023	N. IGUCHI (Japan)
14:40-15:00	The status analysis of <i>Nemopilema nomurai</i> in the East China Sea and Yellow Sea during the autumn of 2023	J.S. LI (China)
Chair: Jing DONG		
15:00-15:20	Interannual variation of the sea surface temperature and giant jellyfish appearance in the Yellow and East China Seas	T. TAKIKAWA (Japan)
15:20-15:40	Spatio-temporal distribution of <i>Nemopilema nomurai</i> and its relationships with environment in the East China Sea Region	H.Y. LI (China)
15:40-16:00	Numerical experiment to understand of <i>Nemopilema nomurai</i> migration toward Japanese coast	Y. IGETA (Japan)
16:00-16:20	Coffee Break	
Chair: Shinichi UYE		
16:20-16:40	A factor for less occurrence of Giant jellyfish <i>Nemopilema Nomurai</i> around the Tsushima strait in 2023 summer	T. SETOU (Japan)
16:40-17:00	Dynamic monitoring of <i>Nemopilema nomurai</i> in the East China Sea and Yellow Sea during the spring of 2023	J.Z. LING (China)
17:00-17:20	Distribution of <i>Nemopilema nomurai</i> in the East China Sea from 2019 to 2023	T. HASEGAWA (Japan)
Chair: Kyoung Hoon LEE		
17:20-17:40	Spatial and temporal dynamics of <i>Nemopilema nomurai</i> abundance and umbrella diameter in the East China Sea	Y. LIU (China)
17:40-18:00	Application of Dual-Frequency Identification Sonar (DIDSON) in monitoring three large jellyfish in inshore waters of Liaodong Bay	B. Wang (China)
18:00-18:20	Causes of the <i>Aurelia coerulea</i> outbreak in the southern coast of Korea	K.Y. KIM (Korea)
18:40-	Banquet	
Dec 20		
Session III: Biology / Ecology of Jellyfish		
Chair: Yong LIU		
9:00-9:20	Review on sexual and asexual reproduction of polyp population and blooming potential of the giant jellyfish <i>Nemopilema nomurai</i> in Bohai Sea	J. DONG (China)

9:20-9:40	Reproductive ecology of a giant jellyfish, <i>Nemopilema nomurai</i> , compared to other jellyfish species	H. ISHII (Japan)
9:40-10:00	Exploration on controls of jellyfish blooms in the coastal sea of China based on the relationship between polyps and fouling organisms	F. SONG (China)
10:00-10:20	Study on annual dynamic changes and reproductive strategies of the benthic polyps of the scyphozoans	M. SUN (China)
10:20-10:40	Coffee Break	
Chair: Masaya TOYOKAWA		
10:40-11:00	Biochemical homeostasis through the phytoplankton-zooplankton interface and mirrored in jellyfish polyps	X.P. CHI (China)
11:00-11:20	Biological observation of ontogeny period of <i>Nemopilema nomurai</i>	Y. CHAI (China)
11:20-11:40	Trophic diversity of the bloom-forming jellyfish community in the coastal waters of China assessed by stable isotope analysis	P.P. WANG (China)
11:40-12:00	The effect of temperature on the growth and asexual reproduction of moon jellyfish (<i>Aurelia coerulea</i>) polyps	Y. DUAN (China)
12:00-14:00	Lunch: 2nd Floor, Yingzhou Hall (瀛洲厅)	
Session IV: Management & Utilization		
Chair: Kyoung Yeon KIM		
14:00-14:20	Precautionary management of jellyfish bloom in Korea	B.L. MOON (Korea)
14:20-14:40	Studies on two edible jellyfish in Southeast Asia	J. NISHIKAWA (Japan)
14:40-15:00	The implementation of special fishing for jellyfish in Jiangsu	J.H. TANG (China)
Chair: Yong Dong ZHOU		
15:00-15:20	Status of harmful marine organism management and developmental direction for Korea	M.H. YOO (Korea)
15:20-15:40	Massive bloom prevention of Deukryang Bay where moon jellyfish warning issued repeatedly	S.W. KIM (Korea)
15:40-16:00	Coffee Break	
16:00-17:00	Discussion	Co-Chair: YOUN, WATANABE, CHENG
17:00-18:00	Representative meeting among CJK	Jia Hua CHENG

18:30-	Banquet	
Dec 21		
9:00-17:00	Visit for Zhejiang Institute of Freshwater Fisheries	All Participants
Dec 22	Departure	